

はちの医師会の手記

NO. 665

令和7年6・7月号

八戸市医師会

緑蔭特集号



巻頭言 成人の軽度・中等度難聴者に対する
補聴器購入助成制度について

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

目 次

表紙絵解説	下村正太郎	2
☆巻頭言☆ 成人の軽度・中等度難聴者に対する 補聴器購入助成制度について	金田 裕治	3
☆緑蔭特集☆		
源頼政の鶴（ぬえ）退治	金田 裕治	5
どくた句会抄		7
漢詩廿四篇	北村 英彦	9
書 道	金田八重子	14
航空自衛隊ふれあいコンサート	田口 雅海	15
昭和基地のピラタス機 新緑の八甲田	川守田 究	16
令和7年5月定例理事会		21
令和7年5月理事会・役員会		25
令和7年6月定例理事会		32
第115回定時総会		39
八戸市医師会役員		42
八戸市医師会議長・副議長		42
八戸市医師会裁定委員会		42
八戸市医師会理事職務分担		43
八戸市医師会各委員会名簿		44
第8回八戸地域臨床研修医歓迎会		46
☆学 術☆		
第299回青森県南皮膚科医学会学術講演会		49
八戸肥満症治療セミナー		50
令和7年度青森県臨床内科医学会八戸学術講演会		51
青森県耳鼻咽喉科医学会臨床セミナー八戸		
第667回八戸耳鼻咽喉科医学会学術講演会		52
第98回日本産業衛生学会		53
第68回日本糖尿病学会年次学術集会		54
健康教室		57
新型コロナ罹患後症状（後遺症含む）の新・漢方治療	川村 強	58
☆倶楽部だより☆		
八戸市医師会ゴルフニュース（第2報）		60
八戸市医師会ゴルフニュース（第3報）		61
人・ひと		63
老いと発がん	伊神 勲	65
デーリー東北新聞社提供		66・67
ドイツ留学思い出昔話53. 連載終了の辞	橋本 功	68
没後百年、青春の書のベストセラー作家・ 大町桂月の生涯と功績（第1回）	三川 博	70
研修～リレー日誌～		72・73
八戸市休日夜間急病診療所利用状況		74
会員消息		75
事務局日誌メモ		81
行事予定		82
編集後記		82

表紙絵解説

初恋の紫カタクリ（花言葉より）

カタクリは発芽から開花まで8～9年ほどかかり、かつては球根から片栗粉が作られていました。色は紫色・ピンク色・黄色・白色の品種があり、花言葉はそれぞれにあります。万葉集などでうつむいた可憐な少女として読まれています。紫色は良く見ると、初恋の切なさや寂しさに耐える様に感じますが一方ではやはり春の妖精だと感じるのは私だけでしょうか？

（下村正太郎）

巻 頭 言

成人の軽度・中等度難聴者に対する 補聴器購入助成制度について

八戸耳鼻咽喉科医会

金 田 裕 治

難聴は、認知症の最大の危険因子といわれ、中年期以降の難聴がその要因であるとの論文（Lancet 2017年、2020年改訂）をはじめ、WHOの「認知症予防のためのガイドライン」には「難聴の管理」の重要性が示されており、Lancetでは認知症専門家からなる国際委員会が、2020年に認知症の発症を約40%予防する効果が期待できる危険因子として、難聴、教育不足、喫煙、うつ、社会的孤立などの12のリスクを報告しました。そのうち中年期（45～65歳）の難聴を改善することで認知症の8%を減らすことができるとしており、難聴が最大の危険因子とされています。また晩年のうつ（4%）と社会的孤立（4%）も難聴と大きく関係している可能性があります。

近年「ヒアリングフレイル（聞き取る機能の衰え）」という概念が定着しつつあります。高齢者にいたっては、体力のみならず感覚器の衰えがコミュニケーションや外出の機会を減少させ、知識力、情報処理スピードの低下、はては認知症の起点に繋がると考えられています。一般に加齢性難聴は、個人差はあるものの40歳代後半から徐々に始まり65歳以上に著明に現れます。

現在八戸市における補聴器購入費用の助成については、高度・重度難聴の障害者を対象とした障害者総合支援法による公的助成と、18歳未満の軽度・中等度難聴児への助成が行われていますが、成人の軽度・中等度難聴者の購入費用助成に関しては、八戸市をはじめ県内の市町村で助成制度の導入が遅れているのが現状で、

ことに県南地方では皆無です。

国内では新潟県のように県内すべての市町村で補聴器購入費用助成制度を創設しているほか、多くの自治体で助成制度の設立が進められておりますが、東北では青森県のみが制度のない時期が長く、近年津軽地方の一部の自治体で制度の取り入れが始まったばかりというのが現状です。

一方同じ東北でも山形市では、八戸市とほぼ同じ医療人口を抱えながら「聞こえくつきり事業」として認知症発症のリスクを減らすために、難聴の早期発見、早期導入する試みを自治体、医師会、補聴器技能士が協力し行っています。若年者に対してはヘッドホン・イヤホン難聴への正しい知識の普及啓蒙、主に中高年の方には成人軽度・中等度難聴に対する補聴器購入助成の実施、補聴器の適切な購入方法および補聴器購入後のトレーニングの必要性などの周知啓蒙が主な役割で徐々にその活動範囲を広めております。

補聴器は安価なものでも片耳10万円以上で、より効果的とされる両耳装用も費用の面でなかなか勧められないのが現状です。日本は先進国の中でも補聴器の普及が低いとされる所以です。19歳になると助成が打ち切られるということは、八戸市の難聴をもった若者が新たな職場や進学先での助成を受けながらの生活は期待できないことを意味し、人材の流出にもつながる問題です。

本制度は早期の導入が望まれます。